

2025/7/20「善良な正しい人」ルカ 23:50-56 交・詩 143:3-6、さ 312、せ 404(404)

子どもたちは夏休みに入り、今日はC S夏期学校が開催されます。31名の子どもたちに、神様の愛と、信仰を持って生きる喜びが、伝わることを心から祈ります。同時に今日は選挙も行われています。この国の未来が平和であるよう、為政者のために祈りましょう。

シークレット・エンジェル

「腐った政治」というフレーズは、二千年間変わりません。今の政治家がダメなのではなく、人間にとって本当に難しい仕事なのです。しかし今朝の箇所、アリマタヤのヨセフという議員は「善良な正しい人」として登場します。同僚の決議や行動に同意しなかった、とあるので、出世街道からは遠い人だったかもしれません。人々の認知度や好感度も低かったかもしれません。しかし、大事なことは、真実な平和を望む人であったということです。神の国を待ち望む一人が、暗闇を照らします。

バイブルキャンプで「シークレット・エンジェル」というサプライズが行われることがあります。賛美や司会など、いわゆる目立った奉仕ではなく、友達に自分の景品を分けてあげたとか、みんなが出ていった後の掃除をしていたとか、スタッフの必要な道具を陰で走り取りに行っていたとか、スタッフがこっそりメモしておいた、素晴らしかった参加者の奉仕を最後に表彰するというものです。

ヨセフは、同僚たちの妬みのために、罪のない人が処刑され、そのまま十字架に晒され続けることは、神の目に正しいことではないと確信したのです。そして、勇気を出して、ピラトに遺体を引き取ることを申し出たのです。持ち家ならぬ「持ち墓」までも提供したのは、エルサレム入場で小口バを差し出した店の主人を思い出させます。神の国を待ち望む人は、ヨセフのようなシークレット・エンジェルです。

人の後ろ指を指すのではなく、すすんで明かりをともしに行く人になりましょう。

手遅れでない真心

この一週間の間に、特に教えられたことがあります。それは、「人の善良さ、正しさは、死者への態度でわかる」ということです。奥田姉妹を偲んで、わずか数日の間に、実に多くの方々が弔問に訪れました。そして、感謝や思いを表していられました。娘さんのやよいさんが、棺に小さな黄色い手提げカバンを入れながら「一緒に出かけようね、と買ったけど、使えなかったから」と言われた時、胸がいっぱいになりました。

これらは、手遅れなことでしょうか。意味のない行為でしょうか。一人一人に、神様の愛が表されていることを感じました。無理を押して夏の日差しの中で、別れを告げに來られた犠牲は、心配でしたが、正しいことだと思いました。そして、真心を示すには、遅すぎることはないのだと、ご家族の顔をみながら教えられました。

小さな命の炎を、私も神様の正しさのために燃やしましょう。ヨセフのように。